

【旧約聖書日課】箴言 8章1節、22～31節

1 知恵が呼びかけ

英知が声をあげているではないか。

22 主は、その道の初めにわたしを造られた。

いにしへの御業になお、先立って。

23 永遠の昔、わたしは祝別されていた。

太初、大地に先立って。

24 わたしは生み出されていた

深淵も水のみなきる源も、まだ存在しないとき。

25 山々の基も据えられてはおらず、丘もなかったが

わたしは生み出されていた。

26 大地も野も、地上の最初の塵も

まだ造られていなかった。

27 わたしはそこにいた

主が天をその位置に備え

深淵の面に輪を描いて境界とされたとき

28 主が上から雲に力をもたせ

深淵の源に勢いを与えられたとき

29 この原始の海に境界を定め

水が岸を越えないようにし

大地の基を定められたとき。

30 御もとにあって、わたしは巧みな者となり

日々、主を楽しませる者となって

絶えず主の御前で樂を奏し

31 主の造られたこの地上の人々と共に樂を奏し

人の子らと共に楽しむ。

【使徒書日課】ヨハネの黙示録 21章1～4節、22～27節

1わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。²更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。³そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、⁴彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもは過ぎ去ったからである。」

²²わたしは、都の中に神殿を見なかった。全能者である神、主と小羊とが都の神殿だからである。²³この都には、それを照らす太陽も月も、必要でない。神の栄光が都を照らし

ており、小羊が都の明かりだからである。²⁴諸国の民は、都の光の中を歩き、地上の王たちは、自分たちの栄光を携えて、都に来る。²⁵都の門は、一日中決して閉ざされない。そこには夜がないからである。²⁶人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る。²⁷しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れない。小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れる。

【福音書日課】マタイによる福音書 10章28～33節

²⁸体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。²⁹二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。³⁰あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。³¹だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまきっている。」

³²「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。³³しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

「すべての人に聞こえるように」 説教者=神学生 榊原かをる

こども説教

今日は降誕節第9主日、今年もイエス様の出来事が始まりました。イエス様が地上に来られたのはとても素敵な大きな出来事でした。イエス様が来られる前、神様のみことばを聞いたのは、旧約聖書のモーセ、サムエルやイザヤなど、神様に選ばれた預言者でした。

イエス様が地上に来られてからは、イエス様ご自身が、神様の教え、みことばをお語りくださいました。イエス様の十字架の死、ご復活とご昇天ののちは、お弟子たち一人一人が聖霊を受けて、神様のみことば、イエス様の出来事を語りました。

そして今を生きる私たちは、旧約と新約の聖書から神様のみことばを聞くことができます。聖書は、人間によって文字で書かれているけれども、神様が、お語りくださったみことばです。今聖書を通して私たちは、神様を知り、神様を畏れることを知ります。

イエス様は、神様だけを畏れなさい、地上の様々な力によって苦しめられ、死ぬことがあっても、そんなものを怖がる必要はないと仰います。これから辛くて苦しい十字架への道を歩まれるイエス様が、地上の苦しみを恐れるな、神様を畏れなさいと仰るのです。

日本では、昔から怖いものとして、地震・雷・火事・おやじ、と言いますが、神様を畏れる、とはそういう怖さだけではないようです。

神様だけを畏れる、それは、神様のお力を知り、神様の方を向いて、神様にしがうという事です。

神様は、私たちの魂も体も、地獄で滅ぼすお力のあるお方です。そして全てをご存知のお方、私たちの髪の毛一本まで残らずご存じという細やかな愛に満ち、小さなスズメも守ってくださいます。ただその神様を畏れなさいと、イエス様は聖書を通し、すべての場所で、すべての時代に、すべての人に聞こえるように、呼びかけ、声を上げてくださっています。

イエス様は何も書き残されませんでした。イエス様を信じて繋がった人々によって、復活されたイエス様が語られ、教会にはイエス様がおられます。今日も、イエス様のみことばと共に私たちの中にご存じます。そして聖書を通してみことばは、昔も今もこれからも、すべての人に聞こえるように語られています。

説教

今日のみことば箴言の 8 章 1 節では、「知恵」が、「英知」があなたに対してに呼びかけています。この方は、あらゆるところで呼びかけているのです。一人一人に、すべての人に呼びかけ、声をかけているのです。知恵であり、英知であるこの声の主は、女性として擬人化され、軽やかに飛び跳ね、駆け回り、呼びかけ、聞きなさいと言っている姿が鮮やかに目に見えるようです。

箴言をはじめ、聖書に散りばめられた知恵から、私たちは「主である神様を畏れる」ことを教えられます。それは創造の主、全知全能の神様を知ることから始まります。神様だけが創造される方、新しくされる方です。しかし私たちは、自分たち人間が新しいものを作る、手にすることができると思っではないのでしょうか。人が作るものは、すべて古びて滅びに向かうものです。私たちには、創造される救いの主、自由に恵みを与えられる方、その偉大なるお力に誠実に向き合うことが求められるのです。

知恵は、神様を源とします。箴言の 8 章 22 節からは、知恵が神様の創造のみわざについて教えています。神様は、ご自身において満ち足りておられ、すでに完全なお方であられるのですから、創造とは、ただ神様による自由な恵みであるのです。そして知恵は、その神様の自由な創造のみわざの中に、被造物の何よりも先に生まれた、最初のこどもであることが繰り返し語られます。永遠の昔、太初、大地に先立って、知恵は生み出されて、祝別され、そして神様のうちにそなえられているのです。

22 節からの神様の創造のみわざは、知恵の目を通して、創世記 1 章 6 節から 10 節をなぞります。このみことばは、知恵による神様の創造への賛美です。聞くものに、畏れるべきお方のことを教えています。知恵は、創造というみわざに、匠として加わり、更に主を樂しませ、主のみ前で戯れて、軽々と側転でもしているかのようです。そして、その知恵は、地上に来て、一人一人に、そしてすべての人に呼びかけながら、主のみ前と同じように、人の子らと共に喜び楽しむというのです。

私たちには、神様を源とする知恵、知恵の教師としてのイエス様が来てくださいました。神様とおひとつでありながら、地上にあって私たちに主を畏れることを教えてくださるお方、創造に先立つ神様の長子、人の子らの間におられた方。ご自身の出来事を通して、人の子らを救い、神様との交わりの喜びをもたらしてくださる方はイエス様です。

マタイによる福音書 10 章 28 節は、イエス様が、お選びになった 12 人の弟子たちに向かって、神様の御子、知恵として、神様を畏れることを教えられています。イエス様の教えは、古くからの知恵、伝承されてきたユダヤの共同体の秩序が受け継がれながら、新しく別の秩序を生み出しました。罪人や徴税人と共に食事をされること、安息日に病を癒すみわざを行うこともそうでした。ただ神様に集中し、神様を畏れ、神様の御心になるように行いなさい。イエス様の教え、みわざの一つ一つが喜びと波紋とを呼びます。聖書に預言された救い主の教えでありながら、聖書を知るものほど、イエス様を受け入れられず、信じることができませんでした。神様のご計画の中、そのような人々によってイエス様は十字架に向かわれるのです。イエス様の十字架とご復活の出来事は、旧約の伝統に立つイデオロギ的ユダヤ人にとって、また彼の地を支配するローマ世界の秩序にとっても大きな脅威となります。だから、イエス様は、私を信じるものは、迫害されて苦しみを受けることと仰います。そして、あなた方が恐れるべきは魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方だけであること、創造し、与えることと奪うこと、その全権をもっておられるお方を唯一の神様として畏れなさいと。私たちの髪の毛一本一本まで数えられ、一羽の小さなすずめを、最期まで看取ってくださるお方だけを畏れなさい、あなた方はたくさんのスズメよりはるかに優っている、と仰られます。

私は人間がスズメの小さな命より優っている、という実感が湧きません。もし優ってい

るというならば、それは主が人間の中に、ご自身の知恵である御子を遣わして下さり、苦難と死を受けさせ、私たちが主と共に生きることができるようになってくださった。そのみ恵みゆえでしょう。そして確かにわたしたち人間には、唯一の神様を讃えて礼拝するために、スズメにはない言葉が与えられています。主は、言葉を以て、信仰を隠さずに、人前で「自分をわたしの仲間であると言い表す」すなわち「キリストにあって告白をする」ことを求められます。それは神様の御前で言い表すことと一つのことであると、イエス様は仰いました。主よりほかに恐れるものはないその信仰を大声で呼ばわり、言い広めなさい、と仰います。それは、私たちが日々キリスト者としての信仰告白に生き、すべての人に知られるように、キリストの香りをまとう、ということです。

私たちの主イエス様の教えは、すべての人に聞こえるように、聞いたものが声をあげて伝えるべきものでした。だから 12 人の弟子たちは、苦しみの中でも、知恵の彼女がしていたように、すべての場所、すべての人に呼びかけるように遣わされていきました。救いの真実は、十字架と復活の出来事を頂点にして、すべての人に開かれたものです。聖霊によって、一人一人が神様の大きいなる出来事を語り、教会が作られます。イエス様の教会が、死をも克服する永遠の命、神の国の福音を人々に知らせることは、創造の初めからの神の御計画に沿ったものでした。

しかしみ恵みを受けながらも、罪人である私たち人間は、旧約聖書の時代から、主を畏れない、神様に叛逆する罪と悪との戦いの中にありました。軍事力や経済力を神とするような国家はいつの時代にも現れるのでしょうか。バビロンのように、今もどこかの国のように、現れては消えることが繰り返され、多くの主を畏れる人々の血が流されて、今も流されています。

その戦いの歴史も、ヨハネの黙示録 21 章 1 節にあって終わりが告げられます。そこには、神様による新しい天と地の創造と、その完成が宣言されているのです。イエス様という神の仔羊が屠られ、十字架の死とご復活によって地上に始まった神の国が、神様がはじめに創造された天と地が消え去ることによって完成します。神様の創造のみわざとは、これほどまでに自由であられるのです。

神様が大きなみ声で、すべての人に聞こえるように語られます。とてつもない希望と喜びに満ちた神の国を、神様ご自身が宣言してくださいませ。悲惨な状況にある人間は、実はどれほどの罪の中にいるのか、知ることができないのです。ただ主イエス・キリストの十字架とご復活を通して、神様はそのような人間をも救おうとしてくださる、主を畏れる者に、希望が与えられています。

ヨハネは、神と、契約の民・主を畏れる民が永遠に結ばれる、天と地の結婚を見ています。御子であるイエス様が勝利され、すべてのものをお創りになった生ける神様が、永遠に民と共にいてくださるのです。神様ご自身が、そのみ手によって、人々の目の涙を悉く拭ってくださると仰るのです。これ以上の慰め、喜びの約束があるでしょうか。それは、十字架で死なれ、ご復活されたイエス様を通らずして叶うことはありません。他の誰によっても救いは得られません。私たちは日々イエス様をキリストであると告白し、畏れを以て身を正し、そして神様のご臨在の日を待ち焦がれるのです。

神様と子羊がご自身の光を持って君臨し、永遠の救いが実現する新しいエルサレムの幻は、すべてのものに聞こえるように語られる福音です。私たちは主である神様のみ恵み、神様の知恵であるイエス様を信じ、神の国を求め、神様を畏れるものとして歩みます。すべての人が救い主イエス・キリストを通して、主のお名前を讃える日を待ちたいと思います。